

# 平成 24 年度 事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

## 《公益目的事業》

### がんの知識・予防等の普及啓発(公 1)

#### 【講演会・イベントの開催】

##### ①看護週間セミナー

看護週間中の 5 月 12 日にセミナー「検診でがんに喝！」を大阪市天王寺区烏ヶ辻の大阪府看護協会桃谷センターで開いた。主催・大阪対がん協会、共催・大阪府看護協会、乳がんの手術を経験した 2 人の看護部長が講演し、闘病中の思いなどを語った。また、講師 2 人と乳がん看護認定看護師の 3 人が回答者となり、会場からの質問に答えた。一般の方や看護学生ら約 120 人が参加し、会場の研修室は満席となった。セミナーの経費は約 19 万円で、プログラム広告収入が 8 万円あり、大阪対がん協会が約 11 万円を負担した。

##### ②リボンの騎士ナイト

お笑いライブとがんに関するトークを組み合わせたイベント「リボンの騎士ナイト 2012～貴方ががんから守りたい～」を 7 月 8 日、大阪市北区堂島のエルセラーンホールで開催、約 220 人が来場した。元女性アナウンサーコンビのロンマリ・プロジェクトと大阪対がん協会が 2011 年度に続いて共催した。漫才の矢野兵動ら人気タレント 4 組が会場を笑いの渦に巻き込んだ後、第 2 部でがん専門医と手術経験者の女性 2 人ががんの告知から手術、療養などについて語り合った。チケットは前売り 3 千円、当日 3500 円で販売し、計 218 枚売れた。

##### ③成人病公開講座

大阪府立成人病センター、大阪成人病予防協会とともに今年度も 4 回開催し、通算で 59 回に上った。4 回とも成人病センター講堂(定員 140 人)で開き、会場は毎回満席となり、合わせて約 630 人が参加した。毎回、府立成人病センターの医師ら 3～5 人が講師を務め、診療場面の動画なども織り交ぜて、分かりやすく説明している。

各回のテーマと講師は次の通り。

回数	開催日	テーマ	講師(敬称略)
56 回	6 月 12 日	がん医療における緊急対応	石川淳、東野晃治、上原宏之、熊谷融、大島和也
57 回	10 月 9 日	前立腺がん治療の新展開	西村和郎、垣本健一、小西浩司
58 回	12 月 11 日	がん免疫療法の新しい取り組み	丸野元彦、矢野雅彦、藤原義之
59 回	2 月 12 日	感染症とがん	鼻岡昇、片山和宏、上浦祥司、喜井正士

##### ④がん予防キャンペーン大阪

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムが 10 月 6 日、大阪市中央区高麗橋の朝日生命ホールで開かれ、約 240 人が参加した。大阪対がん協会は実行委員会を構成

する11団体の一つとして15万円を助成した。構成団体はほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度のテーマは「知って、納得。乳がんのこと」で、乳がん検診や乳がん治療について医師2人と患者会の代表が講演、最後に総合討論を通じて検診の重要性などを訴えた。シンポに先立ち日本センチュリー交響楽団による弦楽四重奏のミニコンサートもあった。

#### ⑤がん総合相談シンポジウム

公益財団法人日本対がん協会とともに9月30日、「がん総合相談研修プログラム策定シンポジウム」を東京、大阪の2会場で同時開催した。がんの治療経験者が患者の相談相手となるピアサポートについて、正しい相談の研修プログラムを作るのが狙いで前年度に続く開催となった。大阪会場(府立成人病センター講堂)の参加者は当日、台風のため事前申し込みから半減したものの約50人が参加した。両会場を映像と音声で同時中継する方式で、参加者は患者や医療従事者、行政のそれぞれの立場からの報告を聞いた後、研修用のDVD(試行版)を視聴した。

#### ⑥他団体のイベント支援

大阪対がん協会が今年度、「主催」、「共催」や「後援」名義で協力したイベントは〈別紙＝一覧表〉の通り。上記五つの主催事業に加え、四つのイベントを「共催」し、広報PRや出演者の斡旋など積極的に協力・支援した。「後援」の10事業についてもPRなどに協力した。広報・PRの方法としては協会ホームページの「講演会・イベント情報」欄にアップするほか、朝日新聞大阪版のお知らせ欄「TOWN」への掲載、協会報やメールマガジンでの周知など。イベント支援を通じて他団体と信頼関係を築くことに務めてきた。

### 【情報発信】

#### ①啓発小冊子の発行

新規事業として、がん啓発小冊子「進め！がん防衛隊」の発行に取り組み、年度末に完成・発行した。A5判、40ページ、フルカラーで、がんの基礎的な知識や予防、がん検診の案内などを図表、イラストを盛り込んで分かりやすく解説している。編集著作を大阪府立成人病センターがん予防情報センターに依頼した。大阪のがんに関するデータを紹介し、巻末に府内のがん診療拠点病院60カ所の一覧を掲載して独自色を打ち出した。発行部数は1万部。経費は120万円余りで、このうち75万円は製薬、生保等の企業協賛金でまかなえた。

#### ②協会ホームページ

協会ホームページは平成22年5月の開設から3年目を迎えた。インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、内容の充実ときめ細かい更新で最新の情報提供をめざしている。24年度の掲載項目数は「協会からのお知らせ」が21件(22年度=21件、23年度=29件)、「講演会・イベント情報」が32件(22年度=13件、23年度=35件)だった。イベント情報では、協会の主催、後援行事以外でも主催者の要請に応じてきた。

#### ③ポスターの配布

「がん征圧月間」と「禁煙」のポスターを約150枚製作。大阪府医師会を通じて府下の医療機関

に配布したほか、大阪エイフボランティアネットワーク、大阪府地域婦人団体協議会、大阪府看護協会、大阪府などの関係機関にも配り、掲示を依頼した。

#### ④DVD・ビデオ貸し出し

協会在庫のDVDやビデオを有効活用し、無料で貸し出すサービス(送料のみ負担)を23年度から始め、24年度も引き続き取り組んだ。日本対がん協会が企画・制作した作品など12作品44本をリストアップし、ホームページでサービスを案内している。24年度の貸し出し件数はDVD9本、ビデオ1本で、23年度(3本)から7本増えた。

### 【患者支援・検診奨励】

#### ①リレー・フォー・ライフ

米国で始まり、日本でも各地に広がっているがん患者支援イベント「リレー・フォー・ライフ(RFL)」が9月に大阪では初めて貝塚市で開催された。主催は日本対がん協会とRFL大阪実行委員会。大阪対がん協会は地元支部の立場からイベントを「後援」して広報PRに務め、協会スタッフが実行委員に加わり、当日の運営も手伝った。24時間リレーウォークのほか、がんで亡くなった人へのふるみナリエ点灯、音楽、ダンスのステージ、医療講演など盛りだくさんな催しに約2千人が参加、集まった募金・協賛金から172万円余りが日本対がん協会に寄付された。

#### ②患者連絡会

がん患者支援の取り組みとして、協会は24年度から「大阪がん患者・家族連絡会」の事務局の役割を務めている。同連絡会は、府内のがん患者や家族、支援者ら二十数団体で組織し、大阪府のがん対策に患者サイドからの要望や提案を出すため、随時会合を開いている。協会は、連絡会世話人(3人)からの依頼を受け、会合の日程のメール送信や会場の確保など連絡役を果たしている。大阪府から連絡会へのお知らせも随時メールで送信している。

#### ③乳がん検診無料券プレゼント

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券を活用し、乳がん検診の受診率向上に貢献している。23年度に続き24年度は計300枚のクーポン券提供を受け、はがきでの募集や主催行事でのプレゼント企画に取り組んだ。通常は検診費用が5千円前後かかるが、大阪市内2カ所の検診施設において無料で受診できる。はがきでの募集は6月と10月に各100人の募集に対し529人と346人の計875人から応募があり、抽選で計200人の当選者に贈った。主催行事では看護週間セミナー、リボンの騎士ナイト、がん予防キャンペーンの各イベントで30人ずつ希望者を募り、18人、28人、30人の計76人に贈呈した。

### 学術研究への助成(公2)

#### 【がん研究助成奨励金】

がんの予防と治療、研究に取り組んでいる新進(40歳未満)の研究者、医療従事者を助成、奨励する協会の最重点事業。協会設立翌年の昭和35年度から始めており、平成24年度で53回目を数えた。「基礎」「臨床及び疫学」「看護等」の3部門で計15人の受賞者を選定した。受賞者数は23年度と同じ。今年度は計90人から研究成果の応募があった。13人の選考委員が採点し

た結果をもとに、2月15日に開かれた選考委員会(委員長＝堀正二・協会長)で受賞者を選んだ。受賞者は、今回で延べ1629人、奨励金の総額は3億8080万円となった。

贈呈式は3月11日、大阪市北区中之島の中之島フェスティバルタワーで開かれ、堀会長が受賞者一人一人に賞状と奨励金30万円を手渡した。受賞者を代表し、臨床及び疫学の部で受賞した野田諭さんがあいさつした。

なお、この事業には塩野義製薬、中外製薬、ブリストル・マイヤーズ、バイエル薬品から特定寄付の形で支援を得た。

受賞者と所属は以下の通り(敬称略、50音順、年齢は平成25年3月31日時点)。

部門	受賞者名	年齢	所属
基礎	一井 倫子	38	大阪大学大学院医学系研究科 助教
	笹井 美和	34	大阪大学微生物病研究所 助教
	笹川 覚	38	大阪府立成人病センター研究所 研究員
	佐貫 理佳子	31	大阪大学蛋白質研究所 助教
	萩山 満	35	近畿大学医学部 助教
臨床 及び 疫学	岩上 佳史	33	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生
	浦田 順久	37	大阪市立大学医学部附属病院 研究医
	武田 真幸	36	市立岸和田市民病院 部長
	田中 晃司	34	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生
	野田 諭	37	大阪市立大学大学院医学研究科 病院講師
	疋田 隼人	36	大阪大学大学院医学系研究科 特任助教
	頼 晋也	32	近畿大学医学部附属病院 助教A
看護 等	川島 鮎美	32	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生・看護師
	北野 愛子	31	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生・看護師
	宮崎 ゆう子	34	大阪市立総合医療センター 看護師

選考委員は以下の13氏に委嘱した(敬称略、50音順)。

部門	選考委員名	所属
基礎	鏡山 博行	大阪医科大学名誉教授
	加藤 菊也	大阪府立成人病センター研究所長
	北村 幸彦	大阪大学名誉教授
	螺良 愛郎	関西医科大学教授
	米田 悦啓	大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長
臨床 及び 疫学	奥野 清隆	近畿大学医学部外科学主任教授
	木下 博明	大阪市立大学名誉教授
	小山 博記	大阪府立成人病センター名誉総長
	津熊 秀明	大阪府立成人病センターがん予防情報センター長
	門奈 丈之	大阪市立大学名誉教授
看護 等	阿曾 洋子	大阪大学大学院医学系研究科教授
	今中 基晴	大阪市立大学大学院看護学科研究科長
	田中 京子	大阪府立大学看護学部教授

## 《会員向け事業》

### 賛助会員へのサービス提供

#### 【情報の提供】

##### ①協会報

協会報は4月、8月、12月の3回発行し、会員などに郵送した。主な内容は以下の通り。

発行月	主な内容
4月号	平成23年度がん研究助成奨励金を贈呈・受賞者紹介、講演会・イベント情報、新リーフレット紹介、理事会・評議員会、会員へのお願い、がん検診サービス券配布
8月号	がん征圧月間のイベント紹介(リレー・フォー・ライフなど)、主催行事開催報告(リボンの騎士ナイトなど)、役員改選(新会長選出など)、秋のがん検診案内
12月号	平成24年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋の普及啓発イベント報告、協会ニュース(募金型自販機新設など)、来春のがん検診案内

##### ②事業概要

「平成23年度事業概要」を12月に発行、会員のほか、関係機関に郵送した。A4判で、表紙含め44ページ。従来通り事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、23年度に続き、がん研究助成奨励金の23年度受賞者15人の研究内容を8ページにわたって紹介した。普及啓発活動の紹介では、協会の主催・共催・後援イベントの一覧表を載せた。

##### ③メールマガジン

会員への情報提供として平成23年度からメールマガジンの配信を始め、24年度は計4回配信した。メールアドレスを登録した会員など184人(24年度末現在)にサービスを提供している。内容は協会役員のメッセージやお知らせ、イベント情報など。各回のトピックスと「役員から」のタイトル・執筆者は以下の通り。

号数	配信月	トピックス	役員から
第6号	5月	・新会長に堀氏が就任、副会長に塩崎氏 ・2011年度決算 収支バランスが改善	新会長あいさつ (堀正二・会長)
第7号	7月	・リボンの騎士ナイトに200人 ・募金型自販機を設置…大阪労災病院	がん患者としての自戒 (塩崎均・副会長)
第8号	11月	・がん研究助成奨励金…2012年度も15人に贈呈 ・募金型自販機を設置…近畿大学東大阪キャンパス	がん研究に個人レベルで出来る事 (北村幸彦・常任理事)
第9号	2月	・がん研究助成奨励金 受賞者15人決まる ・まもなく完成 協会のがん啓発小冊子	肝臓外科のトピックス (木下博明・評議員)

#### 【がん検診の案内・援助】

##### ①春・秋のがん検診

協会の会員を対象とした春と秋のがん検診案内を、24年度も実施した。春は大阪がん循環器

病予防センター、秋は大阪府医師会保健医療センターの協力を得て、胃、大腸、肺、乳房、子宮の5部位について協会報などで案内した。春は199人、秋は62人、延べ261人が受診した。このうち9人が精密検査を受診し、70代の女性1人が早期の乳がんと診断された。

会員向け検診への補助として、春は検診受診票の送付用切手代と個人情報保護用ラベルの経費として協会が約3万円を負担、秋は検診施設の医師会保健医療センターへ10万円を助成した。

## ②がん検診サービス券

賛助会員への新しいサービスとして23年度から始めた「がん検診サービス券」(千円分)の発行・配布を24年度も継続して行った。検診施設でがん検診を受診し、千円以上の自己負担があったことを証明する領収書をサービス券とともに持参かお送りいただくことで現金千円か、千円分のクオカードと引き換える。サービス券の利用により、がん検診受診率の向上に寄与する狙いもある。新規入会者を含め賛助会員の全員にサービス券を配布した。サービス券の利用者は65人(23年度は63人)に上った。

# 《協会の運営》

## 決算および寄付の状況

### ①収支は2年連続の黒字

平成24年度予算では、経常収益(収入)、経常費用(支出)とも1900万円を計上した。これに対し、決算では経常収益が2083万円、経常費用が1987万円で、経常増減額は96万円の黒字で、23年度に続き2年連続の収支黒字となった。収益、費用とも予算額を上回り、前年度比では収益が221万円増、費用が313万円増だった。

経常費用で前年度より大きく増えたのは、印刷製本代(92万円増)、賃借料(56万円増)、諸謝金(49万円増)など。印刷製本代では、新規事業の啓発小冊子の経費105万円が増額要因となった。賃借料では、新しく契約した会員管理パソコン及び会計ソフトのリース料が年間54万円かかったのが主な増額要因。諸謝金では新たに年間契約を結んだ公認会計士の顧問料や啓発小冊子の原稿料などが増額要因となった。

### ②寄付は3年連続増、会員は減少

平成24年度の受取寄付金(会費を含む)は2069万円で、前年度に比べて246万円増えた。寄付金が増えたのは22年度(478万円増)、23年度(392万円増)に続いて3年連続となった。

寄付金の内訳とみると、賛助会員からの会費収入が508万円、会員数は903件で前年度に比べ25万円、126件のいずれも減少となった。会員のうち、維持会員(年会費2千円以上の個人)は793件、特別会員(同1万円以上の個人または法人)は110件。23年度から始めた法人特別会員(同3万円以上の法人)は15件だった。高齢などの理由で維持会員の退会が相次ぎ、会員数の減少傾向に歯止めがかからなかった。新入会員は10件(個人10件)だった。

一方、一般寄付は97件、1561万円で、前年度に比べ8件減、271万円増だった。このうち製薬会社や保険会社から使い道を指定した「特定寄付」として、がん啓発小冊子への協賛が75万円、

がん研究助成奨励金事業への協賛が270万円に上った。一般の寄付では、遺贈の1件400万円が大きな増額要因となった。ほかにも個人から100万円の大口寄付が1件あった。

## 収入増の取り組み

### ①啓発行事への協賛

普及・啓発事業のうち、協会が運営に関わる主催・共催行事については、開催経費の一部を協賛金や広告料で賄う方針で臨んだ。看護週間セミナー(5月12日開催)ではプログラムへの広告掲載料として4社から計8万円(各2万円)の収入を得た。

リボンの騎士ナイト(7月8日開催)では、チケット1枚につき300円を「がん征圧事業へ役立てる」との趣旨で協会に寄付していただいた。寄付金は65,400円(218枚分)に上った。同イベントでは開催経費をできるだけ協賛金と入場料で賄い、収入が上回った分も協会へ寄付していただく方針だったが、収支は約12万円の赤字となり、協会が「支払負担金」で充当した。

### ②特定寄付の確保

がん研究助成奨励金事業については、平成22年度から23年度にかけて100万円規模の協賛金を募り、23年度の決算書には、同事業への特定寄付金470万円を明記した。24年度も継続して支援いただいた企業など特定寄付金270万円を確保できた。さらに新規事業の啓発小冊子「進め！がん防衛隊」発行に対して協賛企業を募り、10社から計75万円の寄付を確保できた。これらは用途を定めた「特定寄付」として区別し、全額を当該事業の経費に充てている。

### ③募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組むことで、協会の収入増と知名度アップをめざしている。大阪市内の病院で平成21年度と23年度に設置されたの続き、24年度は協会オリジナルデザインの自販機が6月に堺市の大阪労災病院、10月に東大阪市の近畿大学キャンパス内に設置された。その結果、募金型自販機を通じた収入は23年度の年間7万円から24年度は約50万円に増えた。この収入は一般寄付として決算処理している。

### ④封筒広告

23年度に続いて協会の封筒を利用して広告料収入を得た。協会が使っている大小2種類の封筒で広告主を募集したが、23年度と同じく、小サイズの封筒に医療関係の出版社から申し込みがあり、裏面の下半分に出版物の広告を載せた。収入は4万円余りで、封筒の印刷経費を一部賄えた。同収入は寄付金とは区別し、雑収入」として決算処理している。

## 役員等を改選

5月21日に開いた理事会・評議員会で任期満了に伴う理事、監事の改選案を承認した(いずれも5月25日付で就任)。理事は13人のうち3人が退任し、10人が留任した。監事は1人が交代した。理事の互選により新しい会長に堀正二理事、副会長に塩崎均理事が選ばれた。

退任した3理事のうち、今岡真義会長と小山博記常任理事(前会長)は名誉会長に就任。松本

圭史副会長は顧問に就任した。名誉会長には豊島久真男参与(元会長)も就任した。

評議員、顧問、参与についても任期や委嘱機関の満了に伴い、新メンバーの選出が同意された。評議員は1人が退任し、14人が留任した。

新しい理事、監事、評議員は次の通り(敬称略、肩書は就任時)。

役職	氏名	肩書
会長(理事)	堀 正二	大阪府立成人病センター総長
副会長(理事)	塩崎 均	近畿大学学長
専務理事	藤崎 昌彦	
常任理事	北村 幸彦	塩野義製薬顧問、大阪大学名誉教授
〃	多田 恭之	関西経済連合会理事
〃	豊田百合子	大阪保健福祉専門学校副学校長、大阪府看護協会顧問
理事	石川 治	大阪府立成人病センター病院長
〃	上西 洋二	阪喉会理事長、日本喉摘者団体連合会副会長
〃	津熊 秀明	大阪府立成人病センター がん予防情報センター長
〃	辻 恵美子	がん患者サポートの会ぎんなん代表、がん患者団体支援機構理事
監事	野崎 篤彦	日本生命済生会理事長
〃	平安 宏充	税理士・公認会計士
評議員	青山 ヒフミ	大阪府立大学看護学部教授
〃	石崎 勝義	元大阪対がん協会専務理事
〃	大谷 周造	明石二見特別養護老人ホームラガール施設長、大阪市立大学名誉教授
〃	奥野 清隆	近畿大学医学部外科学主任教授
〃	小倉 剛	結核予防会大阪府支部顧問
〃	加藤 菊也	大阪府立成人病センター研究所長
〃	木下 博明	矢木脳神経外科病院名誉院長、大阪市立大学名誉教授
〃	高杉 豊	大阪府保健医療財団理事長
〃	谷川 允彦	谷川記念病院理事長・院長、大阪医科大学名誉教授
〃	遠山 正彌	大阪府立病院機構理事長、大阪大学名誉教授
〃	中尾 正俊	大阪府医師会理事
〃	濱本 満紀	特定非営利活動法人がんと共に生きる会副理事長・事務局長
〃	福原 毅	大阪府病院協会副会長、生長会会長、悠人会会長
〃	間 吾 弘	大阪医薬品協会事務局長代理

新しい名誉会長、顧問、参与は次の通り(氏名のみ、敬称、肩書略)。

□名誉会長 今岡真義、小山博記、豊島久真男 (以上3人)

□顧問 伊藤芳明、柴田俊治、伯井俊明、松本圭史、横井正彦 (以上5人)

□参与 淡田修久、安藤温規、石河修、市場屋邦雄、井上俊彦、今村正之、上ノ山幸子、内海紀雄、倉井銑太郎、黒田知純、児玉憲、坂井信也、清野裕、田口鐵男、竹中統一、谷口直之、垂井清一郎、土屋裕弘、戸室常一、中井義明、永井伸彦、灘本正博、西澤良記、西宗義武、野口眞三郎、野田起一郎、野田定、長谷俊治、幡掛大輔、服部盛隆、早川徹、平方彰、藤田昌英、正岡徹、丸谷愛子、宮武健次郎、向原潔、目加田英輔、森川敏雄、山西清芳、山本研二郎、吉岡敏治、吉川秀樹、米田悦啓 (以上44人)



## 公益財団法人への移行

公益法人改革に伴い、協会は平成 20 年 3 月の理事会で「公益財団法人へ移行」の方針を決議し、移行準備を進めてきた。しかし、赤字収支が毎年度のように続いて協会財政が悪化、公益認定を得る見通しが立たないことから、22 年度から 23 年度にかけては財政立て直しを優先し、公益移行に向けた手続きは中断していた。23 年度の決算で収支が 4 年ぶりに黒字になるなど財政状態が好転したことから、24 年度は公益認定申請の手続きに着手する方針が理事会、評議員会で確認され、以下のような取り組みを進めた。

### ①移行認定申請書の提出

公益認定申請には、法人の基本情報や事業内容、財務関係の諸表、定款や諸規定、予算、決算関係など多くの書類を作成し、一式そろえた上で移行認定申請書を大阪府へ提出する必要がある。また、申請書類については理事会や評議員会の承認が必要となる。24 年度初めから書類の作成に取り掛かり、8 月 3 日の理事会と評議員会で承認を得た後、上半期中の 9 月 3 日付で認定申請書を提出(電子申請)した。

### ②移行時の役員の選任

公益財団法人移行時の役員について、決められた手続きに沿って選任し、8 月 3 日の理事会と評議員会で承認された。理事と監事は、任期満了に伴って改選された理事 10 人、監事 2 人(5 月 21 日の理事会・評議員会で承認)が公益移行後も引き続き就任する。評議員については、6 月 27 日に「最初の評議員選定委員会」を開き、委員 5 人によって公益移行時に就任する最初の評議員 13 人を選出した。選出された方は次の通り(敬称略)。

氏名	肩書	氏名	肩書
青山 ヒフミ	大阪府立大学看護学部教授	谷川 允彦	谷川記念病院理事長
石崎 勝義	元大阪対がん協会専務理事	遠山 正彌	大阪府立病院機構理事長
奥野 清隆	近畿大学医学部外科学教授	中尾 正俊	大阪府医師会理事
小倉 剛	結核予防会大阪府支部顧問	中野 秀男	大阪市立大学名誉教授
加藤 菊也	大阪府立成人病センター研究所長	濱本 満紀	がんと共に生きる会事務局長
木下 博明	大阪市立大学名誉教授	福原 毅	大阪府病院協会副会長
高杉 豊	大阪府保健医療財団理事長		(以上 13 人)

### ③認定委員会での審査

認定申請書提出後は、申請内容について大阪府でチェックし、担当課(健康づくり課)を通して質問や修正指導を受けた。協会では 24 年度内に公益認定委員会の審査で「認定」を受け、登記手続きを経て 25 年度当初からの公益財団法人移行のスケジュールをめざしていた。だが、年度中に 2 回、認定委員会の審査を受けたが、いずれも継続審査となり、公益財団法人移行の課題は 25 年度に持ち越された。

## 《別紙》

大阪対がん協会の普及・啓発事業(2012年度)					
日付	イベント名	会場	主な内容	大阪対がん協会の役割	主催団体
4月17日	リンパ腫医療セミナー in 大阪	エルおおさか 南ホール	悪性リンパ腫に関する専門医の講演とパネルディスカッション	後援	グループ・ネクサス
5月12日	看護週間セミナー 「検診でがんに喝！」	府看護協会 桃谷センター	乳がんの手術を経験した看護部長2人の講演と質疑応答	主催	(共催)大阪府看護協会
5月20日	第18回生命の駅伝 ラン・ウォークin大阪	大阪城公園	がん研究支援イベントとして企画。参加者はランとウォークを通して募金活動に協力する	後援	EKIDEN for LIFEの会
6月12日	第56回 成人病公開講座	成人病センター	「がん医療における緊急対応」のテーマで専門医5人が講演	主催	大阪成人病予防協会、 大阪府立成人病センター
7月8日	リボンの騎士ナイト 2012	エルセラウンホール	矢野・兵動らタレント4組のお笑いライブと専門医、患者によるがん啓発トーク、抽選会など	共催	(共催) ロンマリ・プロジェクト
7月20日	がん医療水準均てん化推進 事業・医療従事者研修会	天満研修センター	統計資料に基づく都道府県がん対策推進計画の進捗状況や見直しポイントの解説と意見交換	後援	日本対がん協会、 大阪府立成人病センター
7月29日	市民公開シンポジウム	大阪大学 中之島センター	「がん対策基本法」について山本ゆきさんの講演とがんの治療方針をめぐる専門医らの討論会	後援	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(参加7大学)
8月18日、 19日	第30回日本ヒト細胞学会学 術集会	梅田スカイビル	「がんの予防と診断 up to date」のテーマでHPVの話題を取り上げ講演とシンポジウム	後援	第30回日本ヒト細胞学会 学術集会
9月～3月	大阪ピンクリボン キャンペーン2012	大阪市内8カ所、 通天閣	クレオ大阪や医療機関での乳がん検診、通天閣のピンク色ライトアップ	後援	大阪市女性協会
9月22日 ～23日	リレー・フォー・ライフ 大阪in貝塚	大阪府営 二色の浜公園	がん患者支援のチャリティーイベント。24時間リレーウォークやルミナリエ、ステージ、医療講演など	後援	日本対がん協会、リレー・ フォー・ライフ大阪実行委 員会
9月30日	がん相談シンポジウム	成人病センター	がんのピアサポートをテーマにしたシンポジウム。東京、大阪の両会場を同時中継し、質疑応答	主催	日本対がん協会
10月6日	がん予防キャンペーン 大阪2012	朝日生命ホール	乳がんをテーマにして医師や患者の講演と討論、日本センチュリー交響楽団の弦楽四重奏	主催	キャンペーン実行委員会 (11団体)
10月9日	第57回 成人病公開講座	成人病センター	「前立腺がん治療の新展開」のテーマで専門医3人が講演	主催	大阪成人病予防協会、 大阪府立成人病センター
10月28日	ピンクリボン大阪2012 女性がんの検診啓発	りんくうタウン駅 付近	乳がん・子宮頸がんの委託検診、音楽・ダンスなどのイベント、観覧車のライトアップ	後援	特定非営利活動法人 ピンクリボン大阪
11月3日	がん医療水準均てん化推進 事業・一般向け研修会	大阪科学技術 センター	大阪府のがんの現状やがん対策についての講演、がんカルタを使った啓発	後援	日本対がん協会、 大阪府立成人病センター
12月11日	第58回 成人病公開講座	成人病センター	「がん免疫療法の新しい取り組み」のテーマで専門医3人が講演	主催	大阪成人病予防協会、 大阪府立成人病センター
12月16日	市民公開講座「がんになる 前のがんを知る」	大阪国際会議場	喉頭がん、食道がん、肺がんなどについての専門医の講演とパネルディスカッション	共催	(共催) アストラゼネカなど3社
12月19日	「子ども達にとっての、がん を考える」トーク&コンサート	大阪フィル ハーモニー会館	小児がんやがん予防をテーマにしたトーク、大阪フィルハーモニー交響楽団のフルート四重奏	共催	「西成から健康の風を」実 行委員会
2月12日	第59回 成人病公開講座	成人病センター	「感染症とがん」のテーマで専門医4人が講演	主催	大阪成人病予防協会、 大阪府立成人病センター
2月23日	大阪がん検診 治療研究会	千里ライフサイエンス センター	「胃がん検診の新展開」をテーマに専門医による特別講演とシンポジウム	後援	大阪がん検診治療研究会
3月2日	日本胃癌学会総会 市民公開講座	朝日生命ホール	「胃がんにかかったら」をテーマに専門医の講演や佐川満男氏をまじえたディスカッション	共催	第85回日本胃癌学会総会
3月9日	健康フォーラム「もっと知ろ う、がん検診と健康」	御堂会館 大ホール	女優愛華みれさんの講演とがん検診に関する専門医らのパネルトーク	共催	産経新聞社、 大阪府立成人病センター